岡崎城跡清海堀発掘調査　現地説明会資料（R2.2.1）

［発掘調査］ 令和２年１月 14 日～令和２年２月 28 日（予定）　調査面積約 120 ㎡（予定）

［調査経緯］ 岡崎市教育委員会では「岡崎城跡整備基本計画 - 平成 28 年度改訂版 - 」（H29.3）に基づき、岡崎城跡の整備を検討するための基礎となる岡崎城の城郭遺構について、積極的に調査研究を進めている。この調査研究の一環として、今回岡崎城跡清海堀の発掘調査を実施している。

［本丸周辺の縄張りと清海堀］

岡崎城の本丸は河岸段丘の先端に立地し、本丸南側は段丘下の風呂谷曲輪を挟んで龍城堀（水堀）が廻る。一方、本丸北側は地続きの段丘のため、深い空堀で区画して幾重にも重なる曲輪を造り出している。清海堀は本丸と持仏堂曲輪を隔てる大規模な空堀で、岡崎城の最初の築城者、西郷頼嗣の法名「清海入道」に因み「清海堀」と呼ばれている。

本丸周辺の厳重な守りは戦国時代後期に徳川家康が築き上げた縄張りをあらわすともいわれている。清海堀の石垣については天正 18 年（1590）に家康の関東移封後に城主となった田中吉政以降の構築と考えられる。

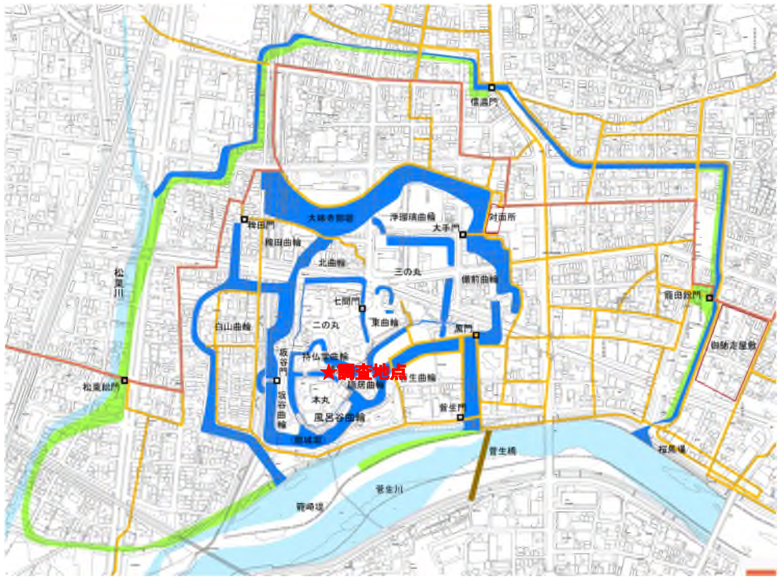

図１　岡崎城郭図と調査地点

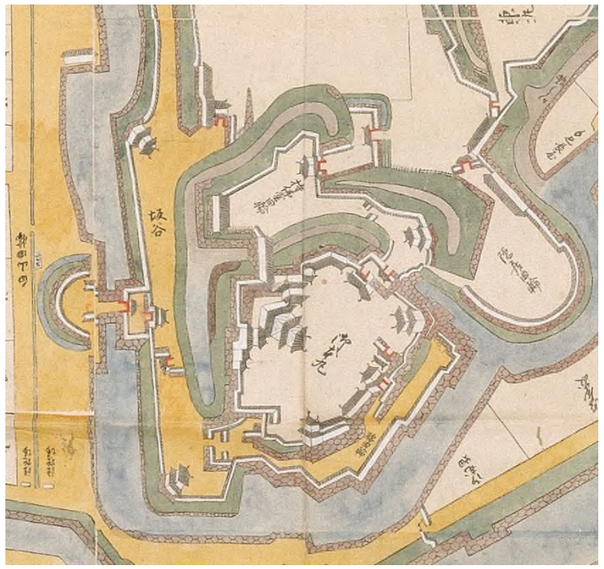

図２　本丸周辺の絵図

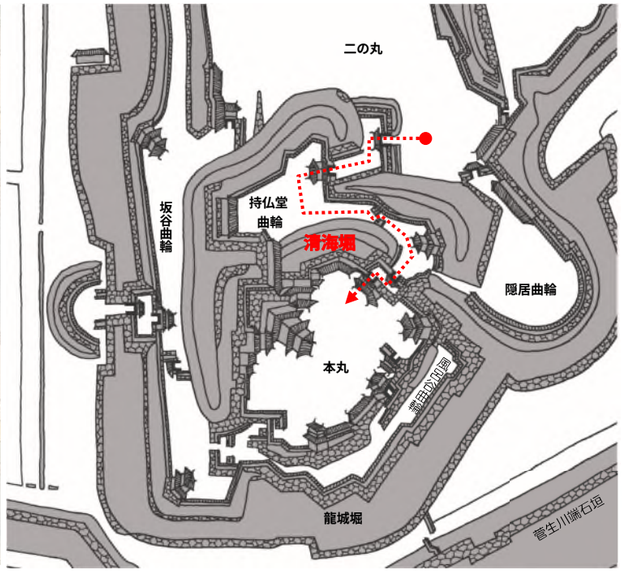

図３　本丸周辺の縄張り

□曲輪　□堀・建物等　- - -二の丸から本丸へのルート

［調査目的とトレンチ配置］

現在の堀底は長年の堆積物により埋没していると考えられることから、本来の堀底の形状ではない可能性がある。同様に石垣も基底部が埋没している可能性がある。また石垣には修築の痕跡も認められるが、埋没部での状況は不明である。このため、以下のことを目的に調査を実施している。

①堀底の形状の確認。
②堀内の堆積状況の確認。
③石垣基底部（根石）の確認。
④堀内からの出土遺物による堀や石垣の構築年代の確認。

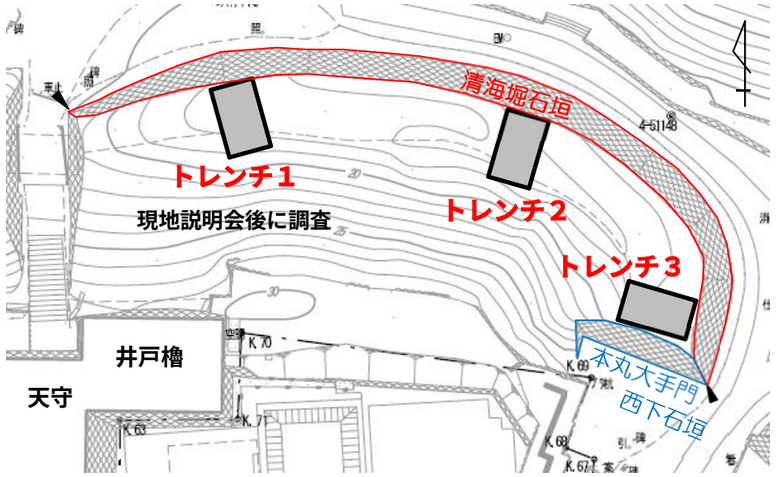

図４　トレンチ配置図

［調査成果］

●トレンチ１：現地説明会後に調査予定。

●トレンチ２：

清海堀の構築状況

・堀底は礫層の地山であることから、本来地続きの段丘であった部分を開削して清海堀が構築されたことをあらわしている。また、堀の形状は堀底が平らな「箱堀」であることが分かった。

堀内の堆積状況

・堀底中央部付近は地山の直上に江戸時代中期から後期にかけての瓦を多く含む土が堆積している。（図 5）
・堀内の堆積を一度除去した後に瓦を含む土で埋めた（埋まった）可能性があるが、その原因は不明。

写真１　調査区遠景（北西から撮影）

石垣基底部の状況

・石垣は地表面から約 1.5m埋没していた。根石から天端石までの高さは約 9.5mとなる。
・箱堀の平らな堀底に根石を据え付けており、根石を据えるための地山の掘り込みは認められなかった。根石下部に調整用の礫を挟み根石を据えるものがある。（写真 3）

石垣の積み直しについて

・石垣は現況でも積み直しのラインが確認されていたが、埋没部の状況からは石垣の修築が基底部までは及んでいないことが分かった。（写真 2）
・石垣修築時の基軸として当初に築かれた石垣の根石をそのまま用いた可能性がある。

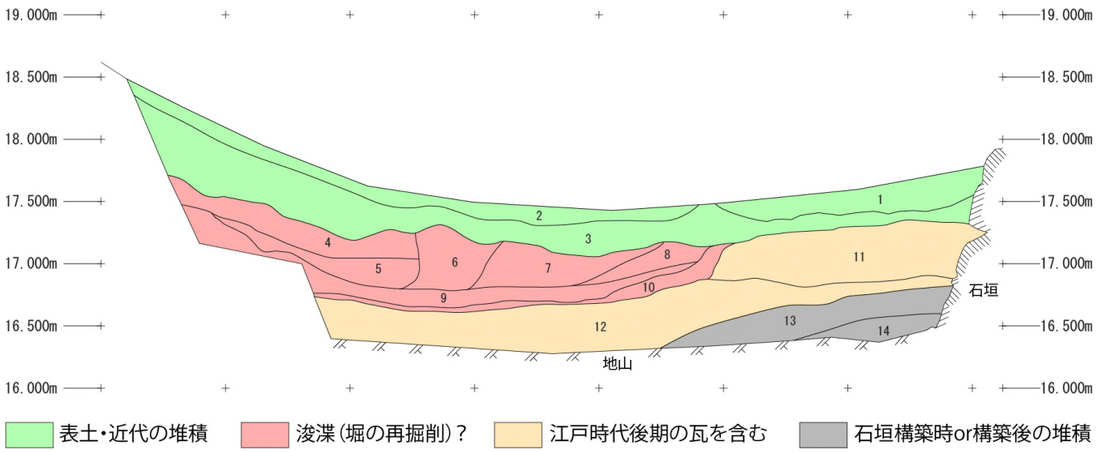

図 5　トレンチ 2 断面図（調査区西壁）S=1/50

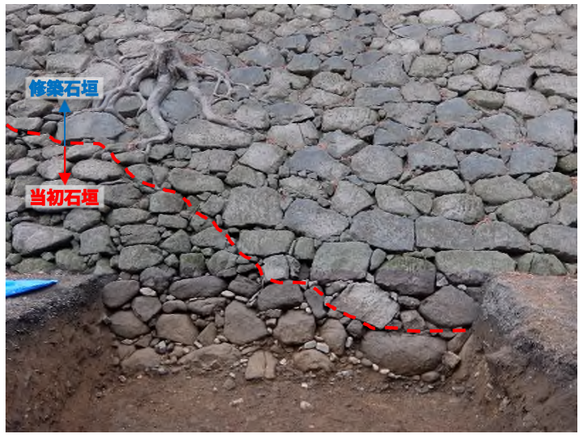

写真 2　石垣全景

写真 3　根石の設置状況

●トレンチ３

堀内の堆積状況

・石垣入隅部分に大量の瓦を含む層が厚く堆積していた。トレンチ 2 同様に、一度堀内の土を除去した後に瓦を含む土で埋めた可能性がある。**（写真 4）**

石垣根石の状況

・石垣は地表面から約 1.5m埋没していた。トレンチ 2 から続く石垣の根石は当初に築かれた石垣の石材（自然石）であるが、入隅部の 1 石のみ修築時の石材（矢穴のある割石）が根石となっている。また、入隅部で折れた本丸側の石垣（本丸大手門西下石垣）は矢穴のある石材を根石から使用しており、清海堀の当初石垣よりも新しい時期に基底部から構築されたと考えられる。**（写真 5）**

石垣の構築順

・入隅部では本丸大手西下石垣に突き当たるように清海堀の修築石垣が築かれていることから、構築の順序としては、①清海堀当初石垣（根石のみ）⇒②本丸大手門西下石垣⇒③清海堀修築石垣が想定される。**（写真 5）**

出土遺物

・大量の瓦溜りから沢瀉紋（水野家）、輪違紋（後本多家？）の軒丸・軒平瓦などが出土した。鬼瓦についても複数個体見つかっており、輪違紋の鬼瓦が初めて出土した。（写真 7・8）

写真 4　堀内の瓦溜り

写真 5　根石の状況（西から）

写真 6　石垣全景

写真 7　鬼瓦（輪違紋）

写真 8　軒丸瓦（輪違紋・沢瀉紋・三巴紋）

［まとめ］

・清海堀石垣は一連ながらも、西側は自然石を使用した構築当初の石垣であり、東側は矢穴のある割石を使用した修築石垣に分けることができる。今回の調査により修築石垣の基底部に当初石垣の根石が残ることがわかったことで、当初に築かれた石垣の範囲が清海堀全域に及ぶことが判明した。また修築石垣は当初石垣の根石を基軸に積み直した可能性が指摘できる。

・当初石垣はその形態から、17 世紀末の田中吉政城主時代に構築されたものと考えられる。また修築石垣は江戸時代中期以降のものと考えられるが、詳細な時期については今後の検討課題である。

・トレンチ 3 で大量に出土した瓦には家紋瓦が多く含まれていた。また輪違紋の鬼瓦が発掘調査では初めて見つかるなど、新たな資料が蓄積された。

※現地説明会資料は現時点での見解であり、今後の調査により見解が変更となる可能性があります。